

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 29 年 2 月 15 日 午後用

## 第 68 回 獣 医 師 国 家 試 験

### 実 地 試 験 問 題 (D)

#### 注 意 事 項

1. 問題数は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雌、14歳齢。全身の脱毛および多飲多尿を主訴に来院。〔図1-A, B〕は左および右副腎の超音波検査像（A：左副腎、B：右副腎）、〔図1-C〕は血液検査結果である。

別冊D  
図1-A, B, C

問1 最も疑われる疾患はどれか。

1. 下垂体性副腎皮質機能亢進症
2. 副腎性副腎皮質機能亢進症
3. 原発性アルドステロン症
4. 褐色細胞腫
5. 非機能性副腎腫瘍

問2 本症例に対する治療法として適当なのはどれか。

- a 副腎摘出
- b フェノキシベンザミンの投与
- c トリロスタンの投与
- d ミトタンの投与
- e 酢酸フルドロコルチゾンの投与

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題2 次の文を読み、問3、問4に答えよ。

〔図2-A〕は、病理解剖した馬の前腸間膜動脈病変の病理組織像（HE染色）弱拡大、〔図2-B〕は同病変内の寄生虫を拡大した像である。

別冊 D  
図 2 - A, B

問3 病変部に存在する寄生虫の発育段階として適切なのはどれか。

- a 第2期幼虫
- b 第3期幼虫
- c 第4期幼虫
- d 第5期幼虫
- e 成虫

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問4 駆虫薬投与以外で本疾患への対策として最も有効なのはどれか。

- 1. 馬房へのカヤヌカカの侵入防止網の設置
- 2. 馬房のコンクリート化によるミミズの排除
- 3. 馬房内の糞便の早期除去
- 4. 放牧場への定期的な殺虫剤・殺ダニ剤の散布
- 5. 放牧場内の水溜り除去

**課題 3** 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

犬、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、雌、8 か月齢、体重 33 kg。4 か月齢頃から後肢の跛行が認められるようになったとのことで来院。初診時、症例は膝を伸ばして起立や歩行することができず、肢端は常に外側を向いていた。〔図 3 - A〕は症例の外貌像、〔図 3 - B〕は左後肢 X 線頭尾側像、〔図 3 - C〕は左後肢 X 線側方像である。

別冊 D  
図 3 - A, B, C

**問 5** 本症例の診断名として、最も適切なものはどれか。

1. 膝蓋骨内方脱臼
2. 膝蓋骨外方脱臼
3. 前十字靭帯断裂
4. 脛骨粗面剥離骨折
5. 内側側副靭帯断裂

**問 6** 本症例に対する外科的治療法の選択肢として適切なのはどれか。

- a 滑車溝形成術
- b 脛骨高平部水平化骨切り術 (TPLO)
- c キルシュナーワイヤによるクロスピン固定術
- d 外側支帯縫縮術
- e 脛骨粗面転位術

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。

〔図4〕を考案した人物は微生物学の歴史の中で数々の功績を残した。

別冊D

図4

問7 この人物の功績はどれか。

1. 細菌の純培養法の確立
2. 低温殺菌法の確立
3. 顕微鏡の発明
4. 抗生物質の発見
5. ミアズマ説の提唱

問8 この人物はワクチンを用いた予防接種の概念を築いた。この研究によりワクチンの実用化へと結びつくとされる疾患はどれか。

- a 狂犬病
- b 家きんコレラ
- c 牛流行熱
- d 類鼻疽
- e 萎縮性鼻炎

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。**

犬、アメリカン・コッカー・スパニエル、避妊雌、9歳齢。3か月前から下痢、2か月前から食後の嘔吐がみられるようになり、その頻度が増加しているとの主訴で来院。身体検査で軽度に消瘦を認めた。〔図5-A〕は血液検査結果、〔図5-B, C〕は腹部X線像（B：側方像、C：腹背像）である。〔図5-D〕左は空腸の超音波検査像（横断面）であり、空腸の一部約3cmで〔図5-D〕右に示す像（縦断面）が得られた。

別冊 D

図 5 - A, B, C, D

**問 9** 本症例の下痢、嘔吐、血液検査異常の原因として最も可能性が高い疾患はどれか。

1. 腸リンパ管拡張症
2. 腸重積
3. 腸腫瘍
4. 小腸内異物
5. 炎症性腸疾患

**問10** 本症例に対する今後のアプローチとして適切なものはどれか。

1. 催吐処置
2. 内視鏡検査および組織生検
3. 消化管運動改善薬投与
4. 試験開腹
5. 病変のコア針生検

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

〔図 6〕は 2005 年から 2014 年の我が国における四類感染症の年間報告数の推移である。

別冊 D

図 6

問 11 「ア」に該当するのはどれか。

1. レジオネラ症
2. オウム病
3. ブルセラ症
4. エキノコックス病
5. Q 熱

問 12 「ア」の感染症に関する記述として適当なのはどれか。

- a ヒトに流産を引き起こす。
- b 我が国における感染死亡例はない。
- c 食品媒介性感染症である。
- d アメーバの細胞内で増殖可能である。
- e 劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱がある。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e



課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

犬、チワワ、雄、9歳齢。1週間前から元気食欲が低下し、浅速呼吸になったとの主訴で来院。胸部X線検査を行ったところ、〔図7〕に示す像が得られた。

別冊D

図7

問13 本症例に対する保存療法として適当でないのはどれか。

1. 胸腔穿刺による抜気
2. 胸腔チューブ留置と持続吸引
3. 酸素吸入療法
4. ケージレスト
5. 抗生物質の胸腔内投与

問14 本症例では保存療法を続けたが、症状が改善しないため開胸して外科的処置を行うこととした。周術期の管理・処置として適切でないのはどれか。

1. パルスオキシメーターで酸素化状態をモニターする。
2. 開胸まではできるだけ高圧で換気する。
3. 麻酔導入前に胸腔内からできるだけ抜気する。
4. 一酸化窒素（笑気）は用いない。
5. 閉胸前に胸腔チューブを留置する。

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

牛、黒毛和種、雄、1 歳齢。〔図 8〕は下腹部から後軀に認められた腫瘤である。活力食欲など一般状態には変化がない。

別冊 D

図 8

問15 最も疑われる疾患はどれか。

1. 悪性黒色腫
2. デルマトフィルス症
3. 皮膚型牛白血病
4. 疥癬
5. 乳頭腫

問16 この疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 水平感染しない。
- b 特定の系統に高頻度に発生する。
- c 2 歳齢以下の若齢牛での発生が多い。
- d 無処置でも数か月以内に退縮することがある。
- e 細菌の混合感染が原因である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

**課題 9 次の文を読み、問 17、問 18 に答えよ。**

ニシキゴイに外部症状は少なく摂餌不良で動きが緩慢となり水面近くを遊泳し死亡する個体がみられた。これらの病魚には〔図 9〕のような病変（※および矢印）がみられた（鰓蓋は切除してある）。また、鰓や腎臓からウイルスが検出された。

別冊 D

図 9

**問17** 最も疑われる原因ウイルスと同じ科のウイルスが起こす疾患はどれか。

1. 狂犬病
2. ブリのウイルス性腹水症
3. サケの赤血球封入体症候群
4. 豚水胞病
5. 牛伝染性鼻気管炎

**問18** 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. フナやキンギョにも本疾患が発生している。
2. 我が国では不活化ワクチンが承認されている。
3. 死亡率は 80～90% に達する。
4. 冬期の低水温期（15℃ 以下）で多発する。
5. 最初の発生は中国で確認された。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

犬、雑種、未避妊雌、7歳齢。元気消失、食欲不振、嘔吐、および多飲多尿を主訴に来院。〔図 10 - A, B〕は腹部X線像（A：側方像、B：腹背像）、〔図 10 - C〕は下腹部の超音波検査像である。

別冊 D  
図 10 - A, B, C

問19 本症例で最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 子宮蓄膿症
2. 子宮粘液症
3. 腸閉塞および腸穿孔による腹膜炎
4. 膀胱破裂
5. 腸管内ひも状異物

問20 本症例では血小板減少症を伴っていた。その原因として最も疑われるのはどれか。

1. 重度の出血
2. 免疫介在性血小板減少症
3. 骨髓異形成症候群
4. エストロジェン過剰症
5. 播種性血管内凝固（DIC）

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

ある疾患の検査法を評価するために 50 頭の罹患動物と 200 頭の罹患していない動物を用いて検査を実施し、その結果を〔図 11〕のようにまとめた。

別冊 D

図 11

問21 この検査法の敏感度はどれか。

1. 20%
2. 33%
3. 66%
4. 80%
5. 90%

問22 検査法の評価に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 敏感度と特異度は負の相関関係にある。
2. 検査陽性個体中に占める罹患個体の割合を陽性反応的中度という。
3. 見かけの有病率から真の有病率を推定することも可能である。
4. 罹患していない個体が検査で陽性反応を示すことを偽陽性という。
5. 2つの検査法の一致度を評価するために ROC 曲線を用いる。

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

猫、雑種、4歳齢。急性の呼吸困難と後肢の起立不能で来院。身体検査では収縮期雑音と奔馬調律を認め、股動脈は触知されなかった。〔図 12 - A〕は、胸部X線像、〔図 12 - B, C〕は心エコー図像（B：Mモード法、C：右側傍胸骨左室長軸像）である。

別冊 D  
図 12 - A, B, C

問23 考えられる疾患と〔図 12 - C〕の矢印が示すものの組合せとして適切なのはどれか。

疾患	矢印
1. 拡張型心筋症	左心房内血栓
2. 肥大型心筋症	左心室内血栓
3. 拘束型心筋症	左心房内血栓
4. 肥大型心筋症	左心房内血栓
5. 拘束型心筋症	左心室内血栓

問24 治療法として適切でないのはどれか。

1. 抗血小板薬の投与
2. 抗凝固薬の投与
3. 利尿薬の投与
4. ジゴキシンの投与
5. アンギオテンシン変換酵素阻害薬の投与

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

〔図 13〕はフリーストール牛群で発生した蹄疾患である。

別冊 D  
図 13

問25 触診すると強い痛みがあり、跛行を呈していた。最も疑われる疾患はどれか。

1. 白帯病
2. 趾皮膚炎
3. 趾間フレグモーネ
4. 蹄底潰瘍
5. 蹄葉炎

問26 この疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a *Fusobacterium necrophorum* が発症に関与する。
- b 過度の乾燥状態は病態を悪化させる。
- c 後肢に多く、左右蹄球の間を中心に広がる。
- d カリフラワー状あるいはイチゴ状の限局性皮膚病変を形成する。
- e アミノグリコシド系抗生物質の塗布が有効である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

〔図 14 - A〕は衰弱した 3 か月齢の鶏を剖検した時の肉眼像である。また、〔図 14 - B〕は白色結節部分の病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D  
図 14 - A, B

問27 最も疑われる疾患はどれか。

1. ニューカッスル病
2. 鶏白血病
3. マレック病
4. 鶏痘
5. 伝染性ファブリキウス嚢病

問28 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 家畜伝染病（法定伝染病）に指定されている。
- b ビルナウイルス科のウイルスが原因である。
- c 感染細胞に Bollinger 小体が認められる。
- d ウイルスを含むフケにより伝播する。
- e ワクチンが市販されている。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e



**課題15** 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、ドーベルマン、雄、1歳齢。2週間前からの間欠的な嘔吐を主訴に来院。〔図 15 - A, B〕は上部消化管造影 X線像（造影剤投与 30 分後）（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D 図 15 - A, B
---------------------

**問29** 嘔吐の原因として最も疑われる疾患はどれか。

1. 胃拡張捻転症候群
2. 幽門狭窄
3. 腸閉塞
4. 胃内異物
5. 裂孔ヘルニア

**問30** 本症例には外科的処置を行うこととした。適切な手術法はどれか。

1. 胃切開術
2. 幽門形成術
3. 胃右側腹壁固定術
4. 胃左側腹壁固定術
5. 腸切除術

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

〔図 16〕は公定法により行った水質検査の結果を示している。

別冊 D 図 16
--------------

問31 この検査の説明として適切なのはどれか。

- a 大腸菌群の検査法である。
- b ガスの産生があったものを陽性とする。
- c 44.5℃ で培養する。
- d ニューマン試薬を加えて判定する。
- e 培地の色の変化が無かった場合を陰性とする。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問32 この検査が適用されるのはどれか。

- 1. 水質汚濁防止法施行令第二条による一律排水基準（健康項目）
- 2. 水道法に基づく水質基準（健康に関連する項目）
- 3. 水道法に基づく水質基準（水道水が有すべき性状に関する項目）
- 4. 人の健康の保護に関する環境基準
- 5. 生活環境の保全に関する環境基準

**課題17** 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雄、1歳齢、体重2kg。左後肢を突然跛行するようになったとの主訴で来院。患部には熱感と腫脹が認められ、触診時に疼痛を示した。〔図17-A, B〕は左後肢のX線像（A：頭尾側像、B：側方像）である。

別冊 D 図 17-A, B
-------------------

**問33** 本症例の診断名として最も適切なのはどれか。

1. 腓骨骨折
2. アキレス腱断裂
3. 踵骨骨折
4. 近位足根間関節亜脱臼
5. 距骨骨折

**問34** 本症例に対する外科的処置として最も適切なのはどれか。

1. キルシュナーワイヤーとテンションバンドワイヤーによる固定
2. クロスピンによる固定
3. ラグスクリューによる固定
4. 関節固定
5. 腱縫合

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、ジャック・ラッセル・テリア、雄、11 歳齢。虚脱を主訴に来院。〔図 18 - A〕は胸部 X 線像、〔図 18 - B〕は心エコー画像である。

別冊 D  
図 18 - A, B

問35 この症例で最も疑われる病態に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 血行動態の変化に関わらず心膜液が貯留した状態を指す。
2. 心臓腫瘍は主な発生要因の 1 つである。
3. 心臓の拡張不全が認められる。
4. 心拍出量および動脈圧の低下により死に至ることがある。
5. 腹水や胸水の貯留を伴うことがある。

問36 この症例に対する最初に行うべき処置として最も適切なのはどれか。

1. 利尿薬の投与
2. 強心薬の投与
3. 心膜穿刺による貯留液の抜去
4. 血管拡張薬の投与
5. 緊急開胸術

**課題19** 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、雌、8歳齢。〔図 19 - A〕はホルマリン固定後の脳断面の肉眼像、〔図 19 - B〕は腫瘍部の病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D 図 19 - A, B
---------------------

**問37** 本腫瘍の発生部位はどれか。

1. 側脳室
2. 大脳白質
3. 第3脳室
4. 中脳
5. 海馬

**問38** 本腫瘍の診断はどれか。

1. 星状膠細胞腫
2. 希突起膠細胞腫
3. 上衣腫
4. 髓芽腫
5. 脈絡叢乳頭腫

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢、繋留飼い高泌乳牛。分娩3週後に元気消失、食欲減退、泌乳量の著しい低下および反芻と第一胃運動の減退がみられた。〔図 20〕は血液化学検査結果の一部である。

別冊 D 図 20
--------------

問39 最も疑われる疾患はどれか。

1. 乳熱
2. 肝線維症
3. 創傷性第二胃・腹膜炎
4. ケトーシス（原発性）
5. 尿毒症

問40 本症例の治療のために経口投与する薬物はどれか。

- a グリセロール
- b グルコース
- c ボログルコン酸カルシウム
- d インスリン
- e プロピレングリコール

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、9歳齢。興奮すると発咳があるということを主訴に来院。〔図 21 - A, B〕は胸部単純 X 線像、〔図 21 - C〕は前胸部に行った細針吸引（FNA）細胞診像（ライト・ギムザ染色、× 400）である。

別冊 D  
図 21 - A, B, C

問41 最も疑われる腫瘍はどれか。

1. 食道癌
2. 大動脈小体腫瘍
3. 胸腺腫
4. 異所性甲状腺癌
5. 肺腺癌

問42 犬における本腫瘍に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 腫瘍内リンパ球の浸潤度と予後の間には正の相関がある。
2. CT 検査は外科的切除の難易度の評価に有用である。
3. 死亡原因として遠隔転移が最も多い。
4. 臨床症状は主に隣接臓器の圧迫による。
5. 重症筋無力症を伴うことがある。

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、6歳齢。分娩直後に〔図 22〕のような状態で起立困難となった。

別冊 D

図 22

問43 本疾患の原因または誘因として適当なのはどれか。

- a 陣痛微弱
- b 早産
- c 過度の牽引
- d 低 Ca 血症
- e 分娩誘起

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問44 本症例の治療として適切でないのはどれか。

- 1. 下垂している部分の牽引
- 2. 尾椎硬膜外麻酔
- 3. 後躯の吊り上げ
- 4. 整復後のオキシトシン投与
- 5. 脱出部の切断



課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕は平成 24 年度における、ある放射性物質のモニタリング結果である。

別冊 D 図 23
--------------

問45 物質はどれか。

1. 放射性ヨウ素
2. 放射性セシウム
3. 放射性カリウム
4. 放射性プルトニウム
5. 放射性ストロンチウム

問46 一般食品および乳児用食品・牛乳における、この放射性物質の基準値（Bq/kg）はどれか。

- |    | 一般食品 | 乳児用食品・牛乳 |
|----|------|----------|
| 1. | 50   | 25       |
| 2. | 100  | 50       |
| 3. | 200  | 100      |
| 4. | 250  | 150      |
| 5. | 300  | 200      |

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

猫，雑種，避妊雌，12歳齢。1か月前からの食欲不振を主訴に来院。身体検査では体表リンパ節の腫脹は認められなかったが，重度の脱水と上腹部にしこりが確認された。〔図 24 - A〕は血液検査結果，〔図 24 - B, C〕は腹部 X 線像（B：側方像，C：腹背像），〔図 24 - D〕は胃の超音波検査像，〔図 24 - E〕は経皮的に胃壁から得られた細針吸引（FNA）細胞診像（ギムザ染色）である。

別冊 D

図 24 - A, B, C, D, E

問47 最も疑われる疾患はどれか。

1. 腺癌
2. 平滑筋肉腫
3. 肥満細胞腫
4. 高悪性度（低分化型）リンパ腫
5. 低悪性度（高分化型）リンパ腫

問48 本症例の治療時の注意点として適当でないのはどれか。

1. 抗がん剤の投与前に脱水を改善することが望ましい。
2. 中枢移行の良い抗がん剤を早急に用いるべきである。
3. 腎毒性の強い抗がん剤は慎重に用いるべきである。
4. 胃腸毒性，腎毒性の観点から非ステロイド系消炎薬は慎重に用いるべきである。
5. コルチコステロイドを使用する場合には高血糖の発現に注意する。

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、ウエルシュ・コーギー、去勢雄、11 歳齢。3 か月前からの貧血と腹囲膨満を主訴に来院。〔図 25 - A, B〕は腹部 X 線側方像（A）および腹背像（B）である。

別冊 D  
図 25 - A, B

問49 画像上で腫瘤の発生臓器としてまず鑑別すべきものはどれか。

- a 副腎
- b 腎臓
- c 尿管
- d 肝臓
- e 脾臓

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問50 腫瘤を摘出したところ病理組織診断は血管肉腫であった。本疾患の腫瘍随伴症として最も頻度が高いのはどれか。

- 1. 高カルシウム血症
- 2. 全身性筋無力症
- 3. 低血糖
- 4. 播種性血管内凝固（DIC）
- 5. 胃潰瘍

**課題26** 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

〔図 26 - A〕は我が国でのある食中毒の年度別発生状況、〔図 26 - B〕はこの食中毒の原因菌の分離・同定法の概略である。

別冊 D 図 26 - A, B
---------------------

**問51** この原因菌に関する記述として適当なのはどれか。

1. 低温で発育する。
2. 微好気性である。
3. 志賀毒素を産生する。
4. アジア型とエルトール型がある。
5. 4群の O 血清型に大別される。

**問52** この食中毒の特徴として適当なのはどれか。

1. 肺炎
2. 脳症
3. ギランバレー症候群
4. 米のとぎ汁様下痢
5. 流産

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、6歳齢。削瘦と体表リンパ節の腫大が認められ、〔図 27〕のような状態で起立不能になった。

別冊 D

図 27

問53 最も疑われる疾患はどれか。

1. 地方病性牛白血病
2. 放線菌症
3. ビタミン A 欠乏症
4. 伝染性角結膜炎
5. 乳頭腫

問54 この疾患の確定診断に必要な検査項目はどれか。

- a 全血球数算定（CBC）
- b 細菌培養
- c 血中ビタミン濃度の測定
- d 神経学的検査
- e ウイルス遺伝子または抗体の検出

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

〔図 28〕はと畜場に出荷された牛の肝臓の肉眼像であり、病変部から細菌が分離された。

別冊 D

図 28

問55 分離された細菌として最も疑われるのはどれか。

1. *Fusobacterium necrophorum*
2. *Escherichia coli*
3. *Trueperella pyogenes* (*Arcanobacterium pyogenes*)
4. *Clostridium chauvoei*
5. *Actinobacillus lignieresii*

問56 この疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 肥育牛より乳用牛に発生が多い。
- b 1年を通じて発生する。
- c 原因菌は子牛ジフテリーからも分離される。
- d ヒトは原因菌の宿主にならない。
- e 濃厚飼料の摂取不足は重要な誘因である。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、シェットランド・シープドック、避妊雌、12歳齢。約1か月前からの元気食欲の低下および排尿困難を主訴に来院。〔図29-A〕は来院時の膀胱の超音波検査像（長軸断面）、〔図29-B〕は尿沈渣から得られた細胞診像（ライト・ギムザ染色、×400）である。

別冊 D  
図 29 - A, B

問57 最も疑われる疾患はどれか。

1. 移行上皮癌
2. 扁平上皮癌
3. 横紋筋肉腫
4. リンパ腫
5. 血管肉腫

問58 本疾患の特徴に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 雄に発生が多い。
2. 膀胱三角部での発生が多い。
3. リンパ節転移・遠隔転移が生じやすい
4. 非ステロイド系消炎薬投与により縮小が認められることがある。
5. 尿道・尿管閉塞を引き起こしやすい。

**課題30** 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、アメリカン・コッカー・スパニエル、雌、5歳齢。頭をしきりに振り、両耳を痛がるとの主訴で来院。外耳道開口部周囲には膿がこびりついており、外耳道は重度に肥厚し、耳道内を肉眼で確認できなかった。〔図 30 - A〕は頭部単純X線像、〔図 30 - B〕は頭部 CT 像（A の①、②、③レベルでの横断像）である。なお、〔図 30 - B〕①の左右はウインドウレベルおよびウインドウ幅を変えた単純像、②および③は左が単純像、右が造影像である。

<b>別冊 D</b> <b>図 30 - A, B</b>
-----------------------------------

**問59** この症例に関する記述として適切なのはどれか。

- a 左右耳道の石灰化が認められる。
- b 中耳疾患を合併している。
- c 腫瘍性疾患が最も疑われる。
- d 顎関節に異常が認められる。
- e 頭蓋骨の明らかな融解が認められる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**問60** 全身および局所の内科療法を行ったが反応がみられなかったため、外科的処置を行うこととした。推奨される手術法はどれか。

- 1. 外側耳道切除術
- 2. 垂直耳道切除術
- 3. 垂直耳道切除術 + 腹側鼓室胞切開術
- 4. 全耳道切除術
- 5. 全耳道切除術 + 外側鼓室胞切開術









